



脚本原点トランス



karasuno10

古痕

原点トランス

烏野博史

人物

牙島彩 (16) 高校生、小学生

渡辺鏡花 (16) 高校生、小学生

稲倉研削 (35) 彩の担任

小村卓也 (10) 小学生、彩の同級生

青木桜 (15) 高校生、鏡花の後輩

演劇部員達

生徒達

保護者

① 冴島家・前（朝）

冴島の表札。ミシンの音。

② 冴島家・彩の部屋（朝）

時計機能つき卓上カレンダーがベッドの脇、机の上にある。机のミシンでドレスを縫う冴島彩（10）。

2005年8月20日と表示された卓上カレンダーのアラームが鳴る。

彩「……できた」

彩、満足そうにドレスを広げる。

③ 港町小学校・校門前

セミが鳴いている。港町小学校の看板。稲倉いねくらの声「ばっかもーん！」

④ 同・教室

教卓前で稲倉研削いねくらけんさく（35）とドレス姿の彩あやが向き合い、彩あやは両方のポケットからポケットの生地引き出している。生

徒達と小村卓也（10）と渡辺鏡花（10）

が床を見回している。

彩、目を見開きガタガタと震えている。

震える手で乱暴に彩のドレスのスカ―

トを掴む稲倉。

稲倉「冴島！　なんでこんなものを着てきた！

ポケットに穴が空いていて財布をなくし

ましたやと!?　見てみい、皆が迷惑してる

んや！　反省しなさい！」

彩「あ、あ、あ、すみません……」

彩、頭を下げる。

小村、呆然と彩を見ている。

小村「（ひそひそ声）何であんな変な服、着

てきたんやろ？　鏡花知ってる？」

鏡花、小村の耳を引っ張る。

鏡花「（ひそひそ声）小村ってデリカシーな

いわあ。可愛いと思ってんやって！」

彩、頭を下げたまま目を見開く。

彩「すみません……でした」

彩、顔伏せたまま涙を流す。

⑤ 冴島家・彩の部屋（夜）

港町小学校の制服姿で力なく入ってくる彩、布団にうつ伏せに倒れこむ。

彩「もう……ドレスは作らん」

カレンダー” 2005年8月20日”。

⑥ 冴島家・外観（朝）

雪が降っている。

⑦ 冴島家・彩の部屋（朝）

壁に港町高校の冬服がかけられている。
さえじまあや

冴島彩（16）が布団で寝ている。机の

上には中身の入った紙袋。

2011年12月19日（月）と表示され

た卓上カレンダーのアラームが鳴る。

彩がのっそりと布団から起き上がる。

⑧ 港町高校・校門前

港町高校の看板。雪が降っている。

⑨ 同・第一体育館

演劇部員達が練習をしている。

⑩ 同・第一体育館・舞台裏控え室

中央の卓袱台を挟むように、ソファとパイプ椅子。卓袱台の上にはミネラルウォーターのペットボトルと空の紙袋。

卓袱台の横には大きな鏡。湯のみを持ちソファに腰掛ける彩。わたなべきょうか”ドレス2”を着て鏡の前に立つ渡辺鏡花（16）。

鏡花、一回転して鏡の中の自分を睨む。

きょうか鏡花「普通」

あや彩「え？」

鏡花「このドレスよ。彩の作るものってこんなんやっただけ？」

彩「ああそれは、勉強したから」

鏡花、体育館ステージの方を見て、

鏡花「桜ちゃん！ ちよー来て！」

あおきさくら青木桜（15）が鏡花の前にやって来る。

鏡花「これどう思う」

桜「うわぁ。かわいい……と思いま——」

鏡花「うーん。もう良いよ。戻って」

桜、ステージに走り去る。

彩「駄目？」

鏡花「駄目。主役が着るんやから、何とか目立つように出来る？」

彩「何とかって……採寸の時、何も言わんかったやん」

鏡花はパイプ椅子に座る。

鏡花「見込み違いやったかな」

鏡花は机の上のミネラルウォーターを飲み、彩をじつと見る。

彩「……え？」

鏡花「こんなん得意やろ？ 昔やってたやん」

彩「昔は、私が何も知らなかったから」

鏡花「今は違うん？」

彩「今は私にはセンスがない事を知ってる」

鏡花「手芸部の幽霊部員やってな」

彩「……」

鏡花「小学校の時、あんたドレス着て学校来てたやろ。たまげたわ」

彩、眉を顰める。

鏡花「稲倉にこっぴどく怒られて……彩、稲倉嫌いやったやろ」

彩「いや、そんな事は——」

鏡花「ええって、私も嫌いやったし……」

彩、首をかしげる。

鏡花「つまりや。私は彩のあの服のセンス好きやったぞ」

彩、目を見開き、浮かない顔。

湯のみをにぎりしめる彩の手。

鏡花「あれからどうなったか興味あったけど、クリスマス公演まであと一週間やしな……まあ良いわ。ありがとう」

鏡花、立ち上がり手を差し出す。

顔を伏せ、座ったままの彩の手をとり握手する鏡花。

鏡花「ほんまありがとう。そうそう。あんた演劇部に入らん？ 衣装作り放題やで」

彩「いや……私は……」

彩は鏡花から視線を外す。

⑪ 土手（夕）

無表情で俯きながら彩が歩いている。

彩、眉を顰め、川に向かって、

彩「くそおー！　うちがどんな苦勞して変な
センス直したと思っとんじゃー！」

彩、マフラーを巻き直し早足で歩く。

⑫ 冴島家・彩の部屋（夜）

押入れの中をあさる彩。

彩、押入れから木箱を取り出す。

彩、木箱を開け、中から小学生時に作
った“ドレス”を取り出す。

彩、普段制服をかけている場所にドレ
スをかけて遠巻きに見つめる。

彩、ドレスを睨みつける。

彩、目をつむる。

稲倉の声「なんで、こんなものを着てきた!!」

鏡花の声「し、可愛いと思ってんやつて」

彩「聞えてるぞ……へたくそ」

彩、目を開け、ドレスに近づく。

彩「センスの欠片もない」

彩、壁にかけてたドレスを手取る。

稲倉の声「財布をなくしましたやと——！」

彩、まじまじとドレスを見つめ、ドレス

スのポケットの生地を取り出す。

彩「確かにこれじゃ、駄目やな。縫い方が甘い。財布落としても当然やし」

ドレスのいびつなフリルを手取る。

彩「これも、もったいないつけ方してるわ。

フリルのつけ方ぐらいちゃん調べろよ」

ドレスを体から離して広げる。

彩「スカートの丈もおかしいやろ。絶対私に似合わんやん」

彩、目を細める。

小村の声「あいつ、なんで、あんな変な服着てきたんやろ」

彩「黙れ小村。こういうのが好きなんじゃ！

……生地はもつと選んだほうが良いな」

時計機能付き卓上カレンダー。

彩「……てか鏡花の奴、このドレス、好きちやうかったやろ」

彩、鏡の前に歩いていき、サイズの小さなドレスを体の前に構える。

彩「ダサイわ。もつと良いものができるはずやったんやけどな……完成した時はそれこそ——」

構えたままドレスを強く握り締める彩。

彩「これのどこが良いねん。お前……」

鏡にあざけ笑いながら泣く彩が映る。

彩「どこが良いと思ったかなんて……」

消え入りそうな声で「わかってるわ！」

彩、俯き、ドレスを腹の前でくしゃりと押しつぶす。

彩、机に駆け寄りドレスを置き、ノートを取り出し、ドレスのデザイン画を描き始める。

⑬ 港町高校・第一体育館・前

” 演劇部。クリスマス特別公演 ロミ
オとジュリエット ” の看板。保護者と
生徒達が行き交う。

鏡花の声 「なにこれえ！」

⑭ 同・第一体育館・舞台裏控え室

彩は以前渡したドレス2を抱えて鏡の
前の鏡花を見ている。

鏡花、新しい”ドレス3”を着て踊る。

鏡花 「なにこれ、なにこれ」

浮かない顔で鏡花を見守る彩。

鏡花 「変なドレスやなく、ジュリエット」

彩 「ま、まあ、それ見せたかっただけやし」

彩、鏡花にドレス2を渡そうとする。

鏡花 「ちよう待ち」

鏡花、彩の手をかわす。

鏡花 「うちの公演見ていき。これ借りるで。
かわいいわ！」

開演のブザーが鳴る。

■ 冴島彩香(14) 女性

特徴 長所：オールドファッション

短所：アイドルと仲良くなりたい

家族 構成：男女男の三人兄弟、長女

仕事：中学生

今している事：おっかけ

過去：服のセンスを疑われて悲しい

